

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	3 1		学校名	県立 I T 未来高等学校				課程	定時制課程			学校長名			津賀 宗充		
教頭名	荒井 智則				阿部 崇							事務（室）長名			廣瀬 克彦		
教職員数	教諭	1 4	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	3	技術員等	3	計	2 8
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	I T 科			4 8	1 7								4 8	1 7	2		
	科																
	科																

2 目指す学校像

- (1) 情報活用の能力や社会の諸問題を分析・解決できる能力を培うことをとおして、デジタル社会を支える I T 人財を育成する学校
- (2) 生徒一人ひとりの多様な価値観や学習形態へのニーズに対応し、興味・関心に応じた進路を実現する学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○正しく物事を判断し、相手の立場を理解した上で、自分の考えや意見を伝えられる人 ○高い専門性を有し、ねばり強く価値あることの実現に向けて、チャレンジする人 ○社会の課題に関心を持ち、その解決に向けて地域社会へ積極的に参画し、貢献する人
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○教科教育の充実による IT 人財として必要な知識と技術の修得 ○キャリア教育の充実による IT 人財として生きていく力の伸長 ○外部機関との連携による最新技術等の知識の習得 ○身につけた IT スキルを活かした地域貢献の推進

別紙様式 1 (高)

入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○コンプライアンス（法令遵守・社会規範・倫理観）を尊重しようとする生徒 ○情報に関する学びに興味・関心があり、継続して課題に取り組もうとする生徒 ○互いのよさを認め合い、協働してよりよい社会の実現に努めようとする生徒
---	---

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導		・生徒の実態を把握した上で、指導と評価の一体化を重視し、IT 人財として必要な資質・能力を育成する必要がある。 ・多様な進路希望に対応するため、自律的な学習習慣を身につけさせる必要がある。
進路指導・キャリア教育		・将来、IT 人財として生きるために必要な力を育成するために、卒業後の進路を見通したキャリア教育を充実させる必要がある。
生徒指導		・全教職員の共通理解の下で、生徒のいじめ・問題行動等の未然防止、早期解決に向けた、きめ細やかな指導体制を構築する必要がある。 ・特別な支援が必要な生徒に対する個別の対応・配慮が求められている。
特別活動		・特別活動が、生徒自らのキャリア形成に結びつけることができるよう指導のあり方を検討する必要がある。
学校健康教育		・個々の生徒の健康状態や配慮すべき事項等を把握するとともに、校内で共通理解を図る必要がある。 ・カウンセリングを充実させることを含め、家庭や専門機関等との連携・協力を密にし、生徒の心身の健康を向上させる指導を行う必要がある。 ・特別な支援が必要な生徒に対する個別の対応・配慮が求められている。
働き方改革		・教職員一人ひとりの業務を見直すとともに、少ないスタッフで滞りなく業務を遂行できるよう協働する必要がある。

5 中期的目標

- (1) 自ら学ぶ意欲を培い、基礎・基本の定着を図るとともに、探求的プロジェクト学習に取り組むことで、IT 人財として必要な資質・能力を育成するとともに、生徒それぞれの進路実現を図る。
- (2) 一人ひとりの生徒理解に努め、生徒と生徒、教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。
- (3) 保護者との信頼関係を深め、学校と家庭との協力体制を構築する。
- (4) 特別活動等を充実させ、生徒主体の学校づくりを推進する。
- (5) 年次を超えて連携し、問題行動の未然防止を図るとともに、問題発生時の危機対応に備える。
- (6) 笠間市や地域住民との連携を強化し、地域社会に積極的に貢献するとともに、「地域から愛され信頼される学校づくり」を推進する。
- (7) 業務の精選と分担の見直しを不断に行う。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
一人ひとりに応じた学習指導の充実、 授業改善	①一人ひとりの学習状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、普段から ICT を効果的に活用した「個別最適な学び」と「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組み、IT 人財として必要な知識と技術を修得させる。 ②IT 技術者に求められる論理的思考力とプレゼンテーション能力を育成する。 ③先端的教育ソフトウェアや e ラーニングを活用し、自律的な学習活動を推奨するとともに、学校全体で学習習慣の定着を図る。 ④生徒の授業評価における「授業満足度」の平均値 3.5 以上を目指す。 ⑤「生徒 1 人 1 台のタブレット等を活用し、学びの進め方を工夫している」教員の割合を 70%以上とする。
探究的プロジェクト学習を軸としたキャリア教育の充実	⑥「切り拓け未来」プロジェクト及び各種進路関係行事に積極的に取り組み、キャリアパスポートで振り返ることを基本とし、卒業後の進路を見通したキャリア教育全体計画を構築する。

別紙様式 1 (高)

	⑦外部機関との連携や積極的な地域貢献を推進し、それぞれの進路実現に必要な知識・技能を習得させるとともに、主体的に進路決定に向き合う態度を育成する。
豊かな心の育成	⑧「公共」及び「倫理」並びに特別活動を軸として、学校の教育活動全体で道徳教育に取り組むとともに、基本的な生活習慣を確立し、公共心・公德心を育成する。 ⑨特別活動及び課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成し、生徒主体の学校づくりを推進する。 ⑩いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図り、安心・安全な学校生活を確立する。
教職員の超過勤務時間の縮減	⑪業務の精選と分担の見直しを不断に行うことにより、残業月 45 時間以内、年 360 時間以内を達成する。
広報の充実	⑫県広報等を通して、学校行事等に関する事前の情報提供、事後の記事提供を行うとともに、学校ホームページを充実させ、保護者や地域の方々に本校の教育活動を積極的に発信する。
学科改編に伴う環境整備	⑬教育課程の完成年度に向けて、情報科関係の環境整備を滞りなく進める。